

マレーシアの概要

- マレーシアは人口約3,357万人（2021年）を抱える多民族国家。マレー半島に都市が集中

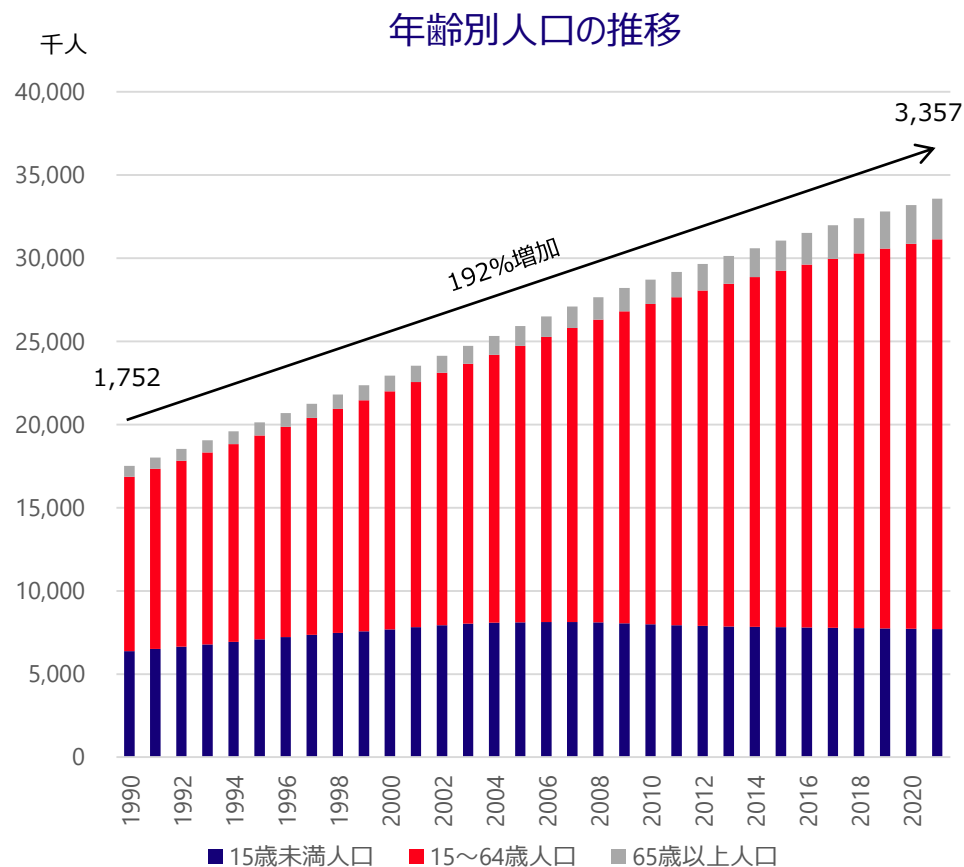
人口	約3,357万人（2021年）
面積	33万km ² （日本の約0.9倍）
首都	クアラルンプール
言語	マレー語（国語）、中国語、タミール語、英語
民族	マレー系約70%（先住民15%を含む）、中華系22%、インド系7%（2021年、マレーシア統計局）
宗教	イスラム教（連邦の宗教）61%、仏教20%、キリスト教9%、ヒンドゥー教6%、儒教・道教等1%、その他
通貨	リンギット
GDP（名目）	14,166億リンギット（2020年）
1人あたりGDP	10,270米ドル（2020年）
GDP成長率（実質）	-5.6%（2020年）
信用格付（S&P）	A-（2022年6月）

出所：外務省、S&P

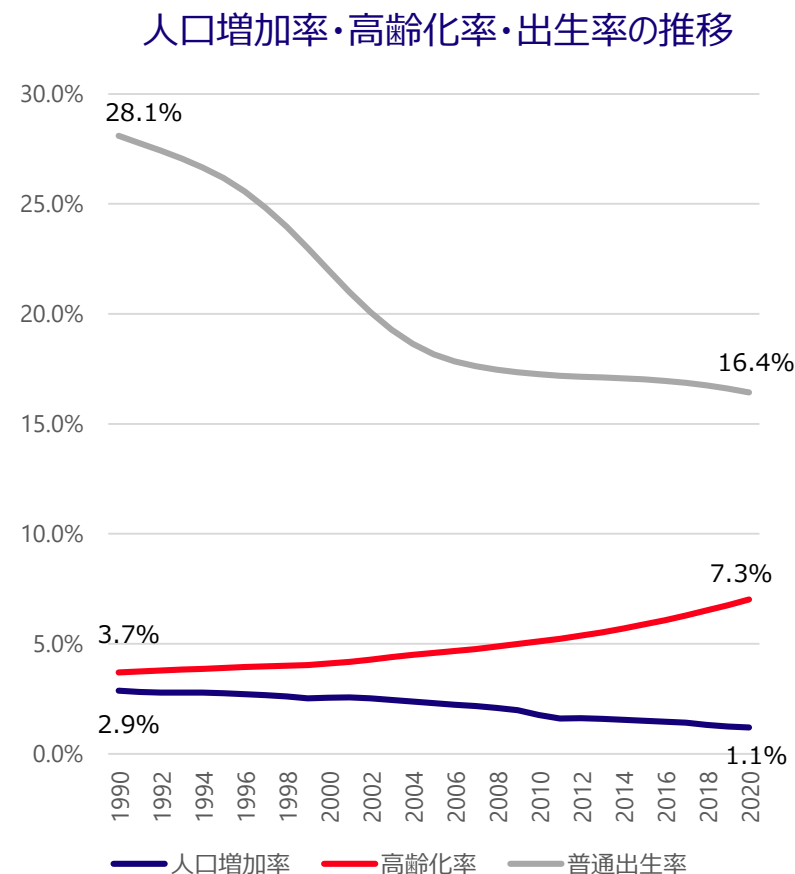


マレーシアの人口推移

- 1990年のマレーシアの人口は1,752万人。2021年には192%増加して3,357万人となった
- 近年の年間人口増加率は1990年の2.9%から2020年に1.1%まで減少。出生率は1990年の28.1%から2020年に16.4%まで減少した。高齢化率は1990年の3.7%から2020年には7.3%に倍増。徐々に高齢化が進行している



出所：世界銀行データより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

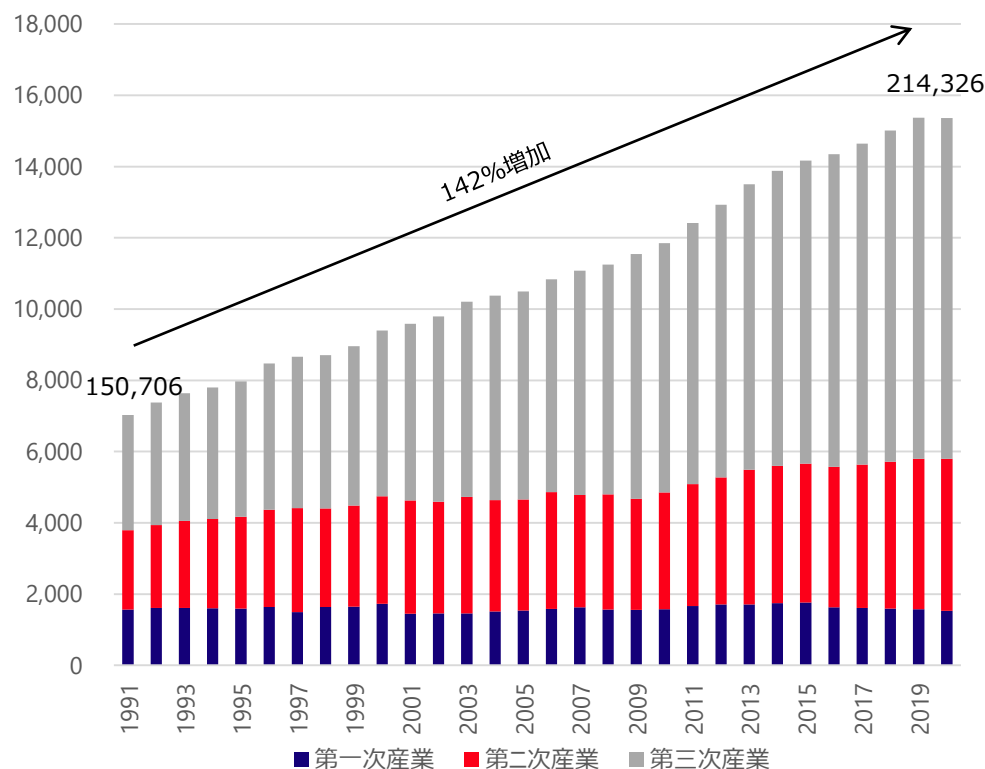


出所：世界銀行、IMFデータより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

マレーシアの労働人口の推移

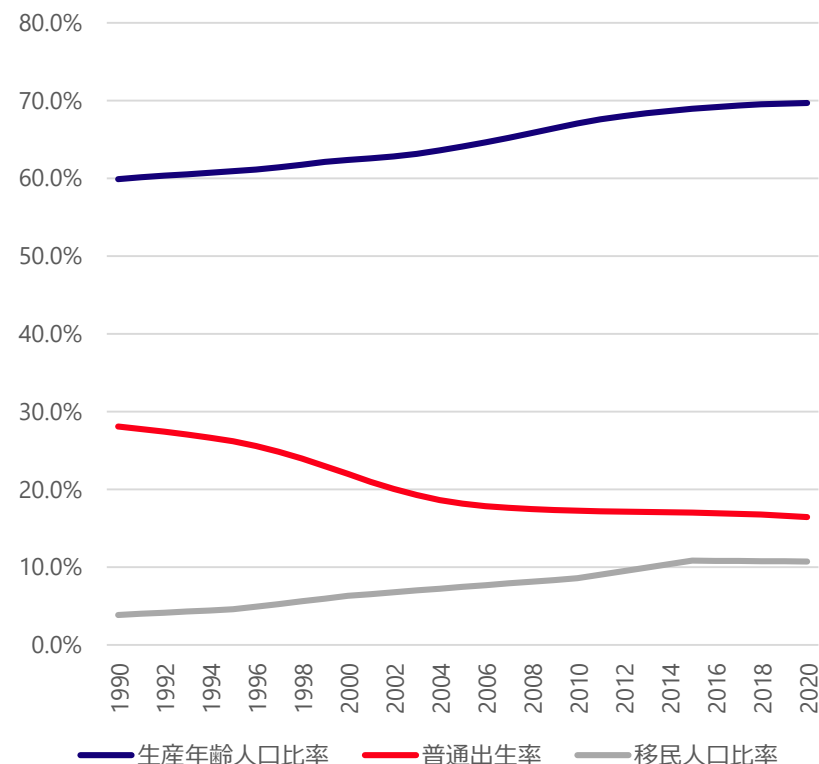
- 2020年のマレーシアの業種別就業人口をみると、第一次＋第二次産業の就業人口は1991年より増加し、第三次産業人口は大幅に増加。また農業を含む第一次産業の就業人口比率は1990年の22.3%から2020年は10.0%まで減少している
- 1990年以降の生産年齢人口比率は緩やかに増加し、出生率は徐々に減少。2010年以降、移民人口比率は増加に転じている

産業別就業人口の推移



出所：ILOデータより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

生産年齢人口比率・出生率・移民人口率の推移

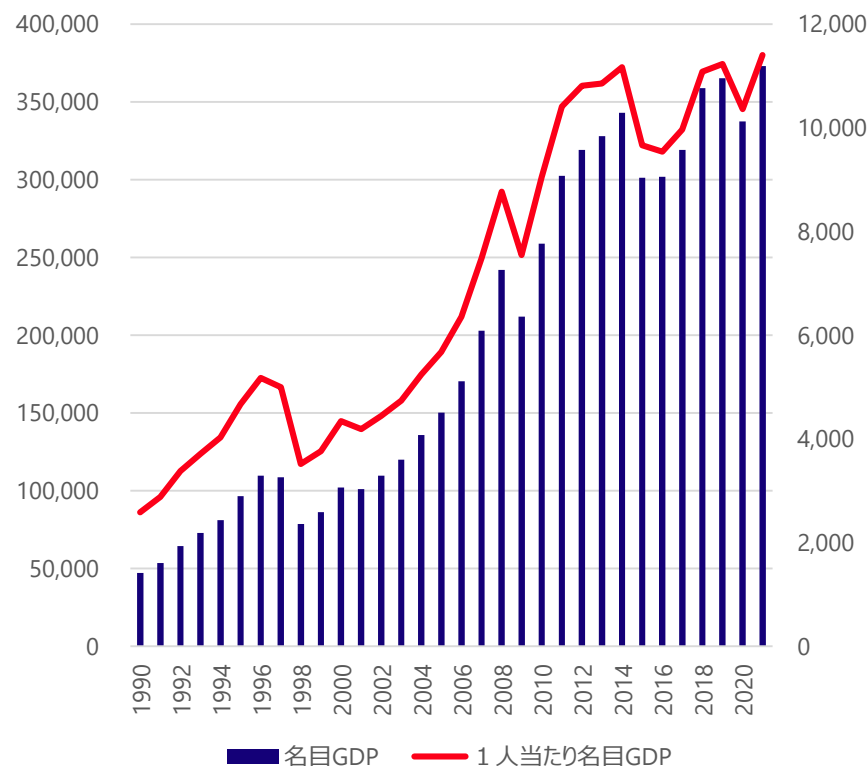


出所：世界銀行、IMFデータより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

マレーシアのGDP

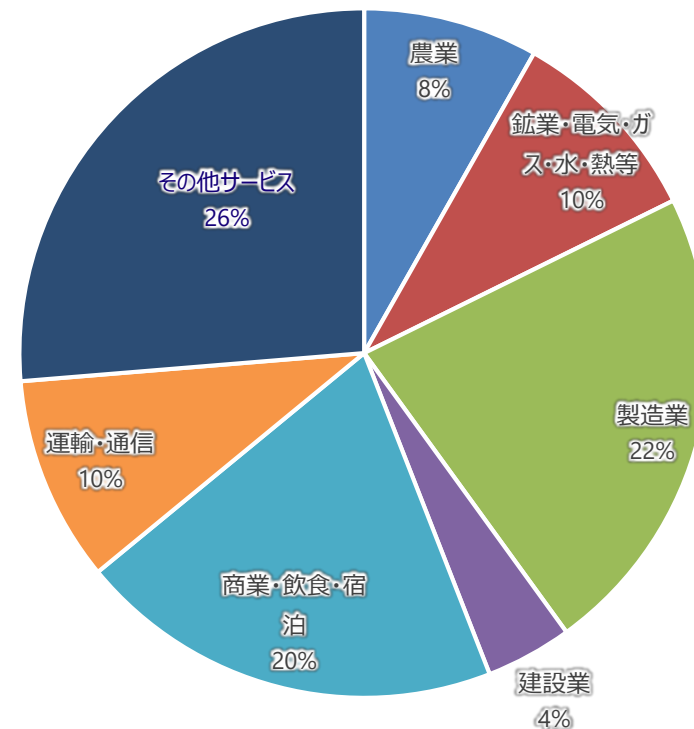
- 1990年以降のマレーシアの名目GDP（国内総生産）及び1人当たり名目GDPは、1997年7月のアジアの通貨危機の影響で一度減少するものの、その後大幅に増加。足元では、2011年以降の資源価格の低下や政局不安などの要因でGDPの伸びはストップし、2021年にはGDP3,730億USドル、1人あたりGDP11,48USドルとなった
- 産業別内訳をみると、農業8%、鉱業等10%と資源産業の割合は、製造業や商業、その他サービス業と比較して大きくない

名目GDP、1人当たりのGDPの推移



出所：IMFデータより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

2021年GDPの産業別内訳



出所：IMFデータより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成



3. パーム油（マレーシア）

- 3-1 マレーシアの概要
- 3-2 マレーシア産パーム油の現状**
- 3-3 サステナビリティに関連する課題等
- 3-4 マレーシア産パーム油の品質・量の安定調達のための取組の方向性

マレーシア政府のパーム産業振興策

- 1848年に西アフリカからマレーシアにパームが持ち込まれて以降、政府の主導の下で産業化が進められてきた

1848 パームが、西アフリカからマレーシアに移植（インドネシアは1848年）

1917 商業的な植え付け開始（1900年からマレーシアの州政府が主導して実験的栽培を実施していた）



1920年代前半に年間2000エーカーの作付けベースであったものが、1930年に入り年間1万4000エーカーの作付けベースで拡大

1956 連邦土地開発庁（Federal Land Development Authority : FELDA）を設立。パーム農園の大規模開発がスタート

【FELDA設立の狙い】

- ・ マレーシア農業の効率的な発展を目的に、各州が個別ではなく、連邦政府の統一的、計画的な開発を推進すること
- ・ 英国系、華僑系資本の農園が市場で存在感を示し、華僑系住民の小規模自作農家（small holder）の拡大しつつある状況下で、マレー系住民をゴム産業やパーム油産業への組織的な参入を促すこと



【FELDAの取組】

- ・ FELDAは、入植者の経済活動の支援、社会インフラの整備
- ・ FELDAと入植者の間で契約栽培方式を導入
- ・ 生産者の大規模化や組合化

1965 パームの年間の新規開発面積がゴムの開発面積を上回る



パーム油の利益率がゴムの利益率を上回り、新規農園開発に加えてゴム生産からパームに切り替える生産者が増加

1980年のパーム油の生産量が2,573千トンであったが、2005年は14,962千トンと5.8倍に増加

2000 マレーシアパーム協会（MPOB）設立（マレーシアのパーム油産業の促進と発展を担当する政府機関）

2006 インドネシアのパーム油生産が急増し、ついに世界シェア1位の座を明け渡す



1980年のパーム油の生産量が2,573千トンであったが、2005年は14,962千トンと5.8倍に増加

2020 マレーシアのパーム生産量は19,140千トン。2016年以降、微減傾向に

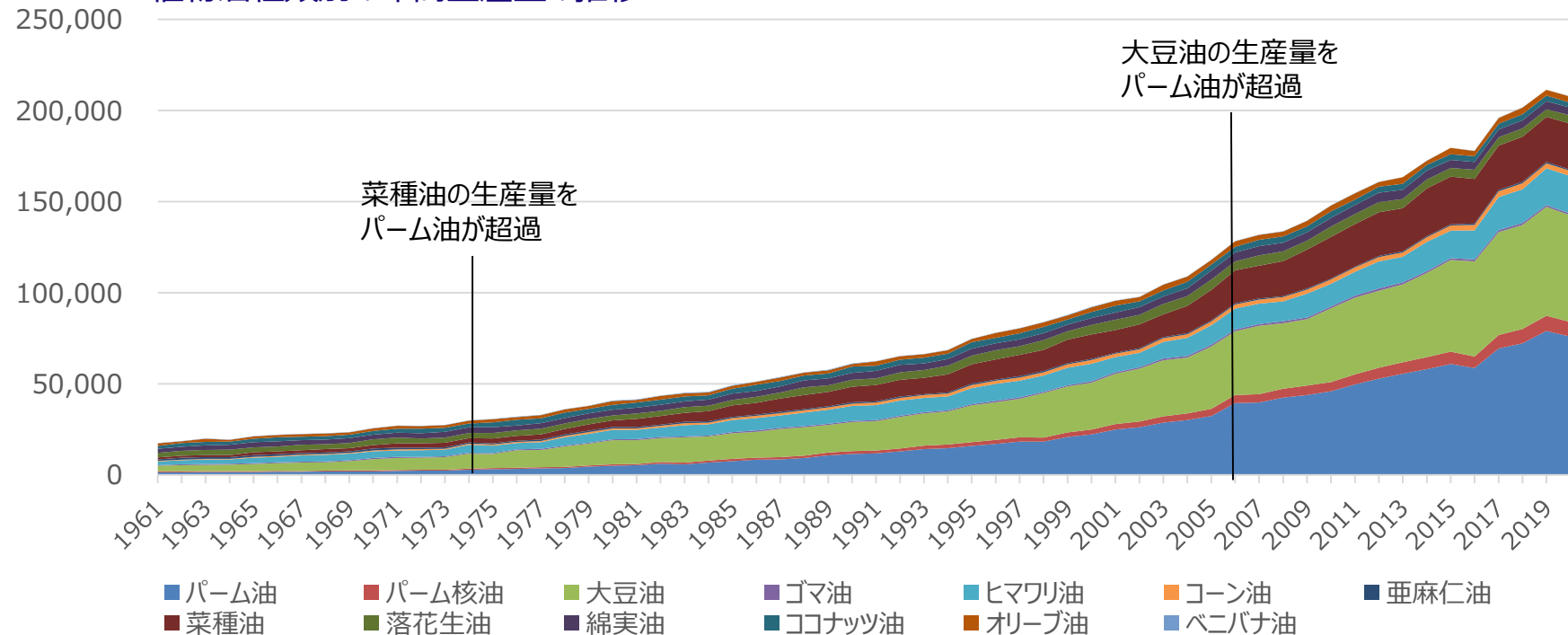
コロナ禍で2020年3月から外国人の採用が停止。プランテーションの労働者が約7万5,000人不足

資料：高多 理吉、「マレーシア・パーム油産業の発展と現代的課題」、国際貿易と投資 Winter 2008/No.74より、みずほリサーチ＆テクノロジーズ作成

マレーシア経済におけるパーム産業の位置づけ

- パーム油は、1980年に欧州で主要な植物油であった菜種油の生産量を超過。アメリカではパームオイルの消費量は1965年には約3,000トンであったところ、1975年には約44万トンとなっていく中でアメリカの主要な国内生産植物油である大豆油にグローバルベースでの生産量で肉薄。
- 先進各国での増加する植物油需要を取り込みつつ、2000年代には更にインドや中国といった新興国の消費を合流していった結果、世界で最も消費の多い植物油として、先進国から新興国まで市場を拡大
- 永らく低価格で推移していたパームオイルの価格は昨今上昇傾向であるも、採油効率から他の植物油で代替可能な水準へ至ることは当面見通せず、引き続き緩やかな価格上昇が見込まれている

植物油種類別の年間生産量の推移



資料：FAOデータより、みずほリサーチ＆テクノロジーズ作成